

さくら小（男山）地域版

市長と

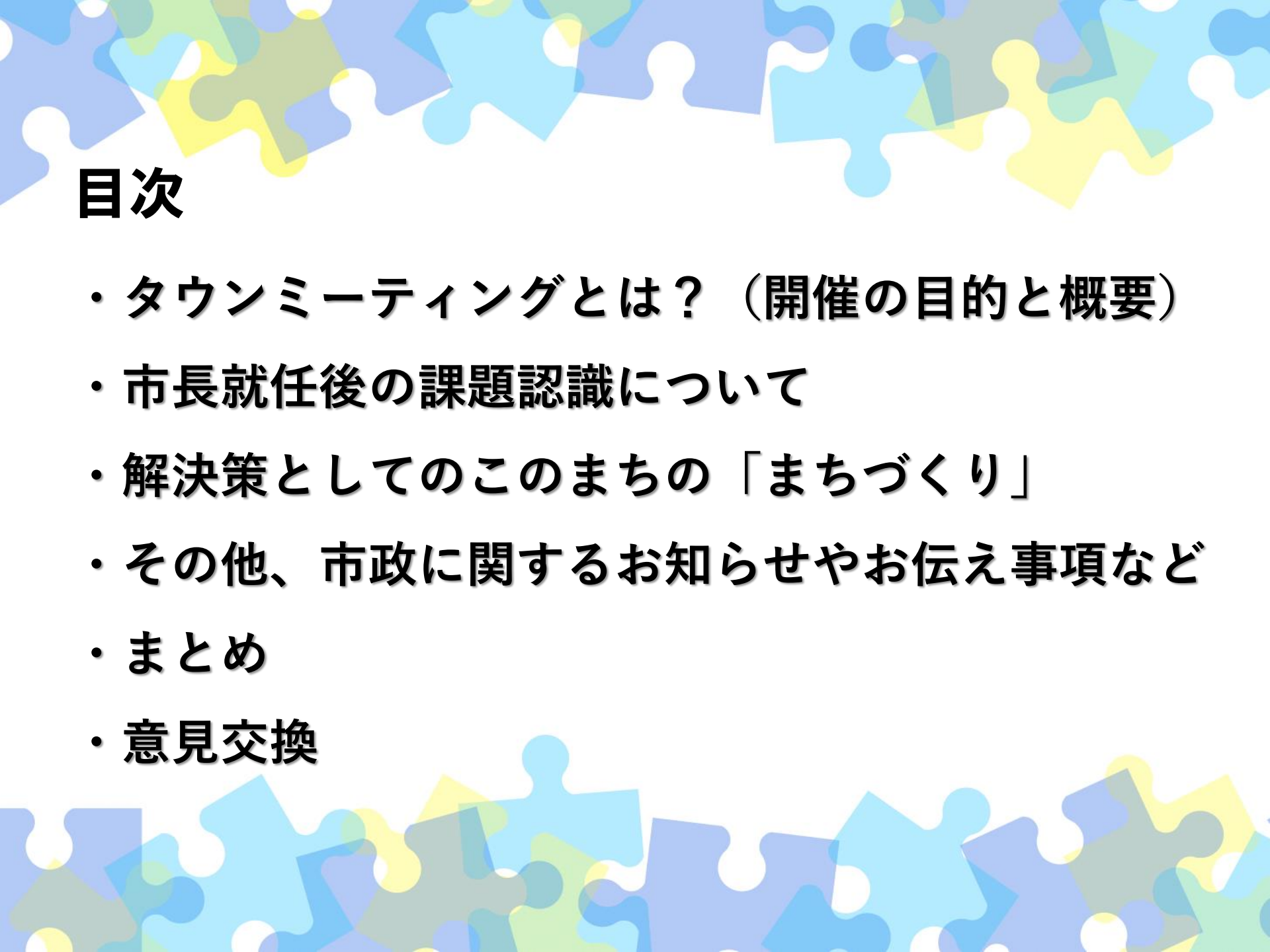
まちかど タウンミーティング

令和6年8月19日  
開催：男山公民館



八幡市

YAWATA CITY



# 目次

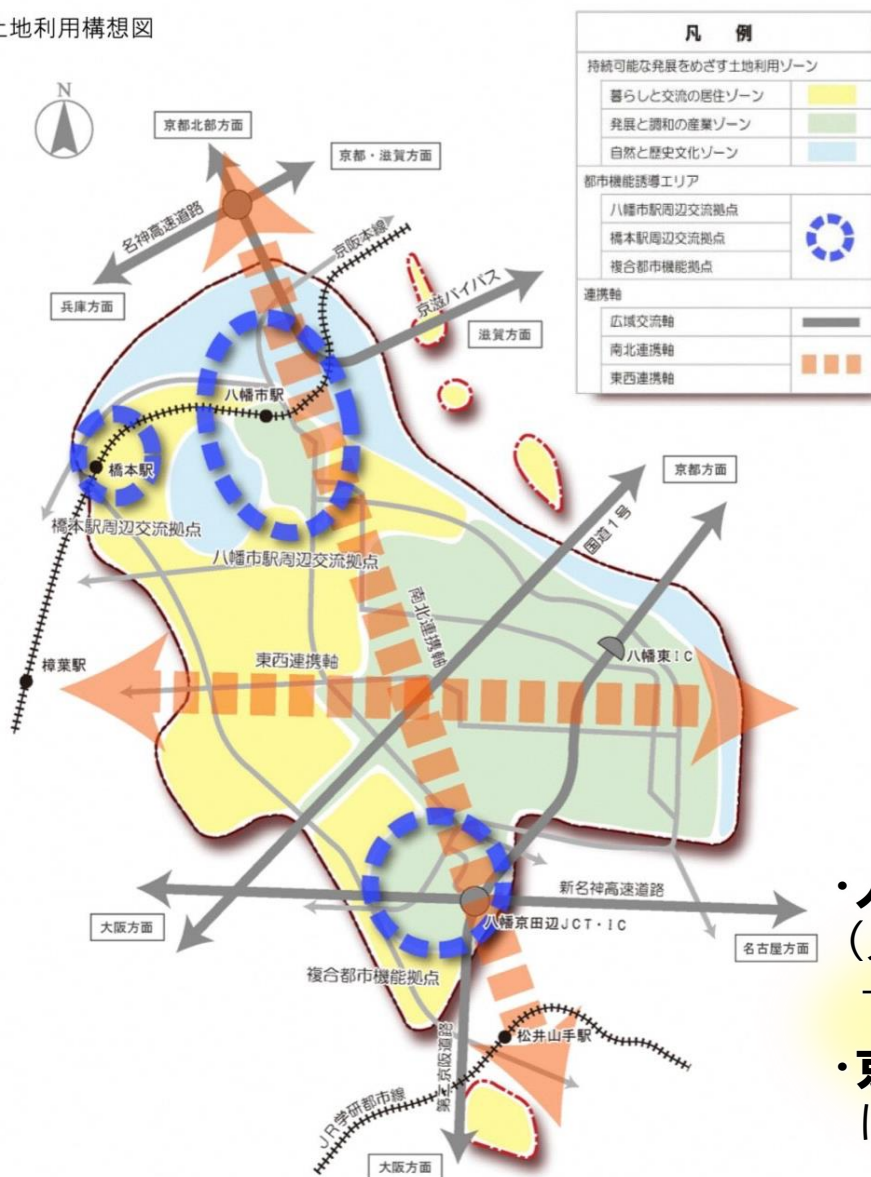
- ・ タウンミーティングとは？（開催の目的と概要）
- ・ 市長就任後の課題認識について
- ・ 解決策としてのこのまちの「まちづくり」
- ・ その他、市政に関するお知らせやお伝え事項など
- ・ まとめ
- ・ 意見交換

# タウンミーティングとは？（開催の目的と概要）

皆さまが日ごろ感じている、まちの利便性やさまざまな情報  
についてお伺いし、できる限り市政へ反映させたい

「まち」に関する様々な課題に対しての思いを共有し、  
市と市民の皆さんが同じ方向を向いて進んでいけるようにしたい

也利用構想圖



・くらしのゾーン  
(市街地、団地、新興住宅街など)

・産業のゾーン  
(農業地帯、工業地帯)

・自然と歴史文化のゾーン  
(石清水八幡宮、社寺仏閣、背割堤、三川合流)

…と、多彩なまちの要素が詰まっている

一方で

- ・**人口減少と急速な高齢化**  
(人口は平成7年の約76,000人をピークに減少  
→現在約68,900人)

・京阪石清水八幡宮駅(旧:八幡市駅)は急行削減により実質準急駅に。(人が訪れず、通過してしまう)

# 市長就任後の課題認識について

## ① 長期にわたり、止まらない人口減少

人口は平成7年の約76,000人がピーク→現在約68,900人

↓  
10万人都市を目指し、想定していた公共施設整備との乖離

## ② 全国平均以上の水準で進む高齢化

八幡市の高齢化率(65歳以上の方の割合)→32.0%

※全国平均：29.1%

↓  
公共交通整備の課題や社会保障費などの問題

## ③ 国宝石清水八幡宮などの素晴らしい歴史文化遺産や 背割堤の桜などの魅力を市内経済や訪問に繋げきれていない 八幡市を訪れる観光客1人あたり平均消費額：約290円

# 市長就任後の課題認識について

八幡がこれからも**住みよいまちで在りつつける**ためには、  
「まちづくり」への不断の前進への努力が必須

**現状維持は後退を意味する**

少子化＝人材不足の深刻化により、  
これまでの経済基盤を維持することがどんどん難しくなっている  
これからは「人・モノ・カネ」すべてが 地方自治体間でも争奪戦に  
まちづくりで取り残されたら、「まち」も置き去りにされる？  
（交通インフラ、人の流れ、お金の流れ が撤収されていく）

# 解決策としてのこのまちの「まちづくり」 政策の「柱」

魅力と活力あふれるまち  
の実現

「住まう先」「訪れる先」「働く先」  
として、選ばれるまちで在り続けるために  
魅力を磨き続ける

子育て

健康

まちづくり

# 解決策としてのこのまちの「まちづくり」

## ・「八幡市」の中での「男山地域」がもつ特徴と強み

- ・ 樟葉駅への良アクセスや眺望の良さを背景に、約40年前から、大きく住宅地開発が伸長したエリア。男山地域には現在も市内人口の約3分の1が居住しており、「くらしのゾーン」として大きな役割を担っている
- ・ 保育園、小中学校、学校跡地、児童館、生涯学習センターなどの教育機関も多く立地し、文教エリアともなっている
- ・ 市内では小高い一帯で、防災面でも大切な役割



# 解決策としてのこのまちの「まちづくり」

## 健幸×まちづくり でまちを元気に

### 歩いて健康 一人一人が元気で幸せなまちへ

市の取組「やわた未来いきいき健幸プロジェクト」では、  
未参加の方と比較して、参加者（令和元年度）の方は、  
一人当たり医療費、介護給付費の合計額が43万円抑制された実績  
＝運動習慣で元気！ ※75歳以上、2022年度実績



# 解決策としてのこのまちの「まちづくり」

**健幸×まちづくり でまちを元気に**

**「歩いて楽しい」「運動に親しめる」  
「ずっと学びにふれあえる」まちを目指して**

第四小学校跡地や、教育支援センターとして活用中の第五小学校跡地など、点在する公共用地も効果的に活かし、  
「健康」「幸せ」「住みよさ」を実現するまちに向けて取り組みたいと思います。皆さんの意見をお聞かせください。

